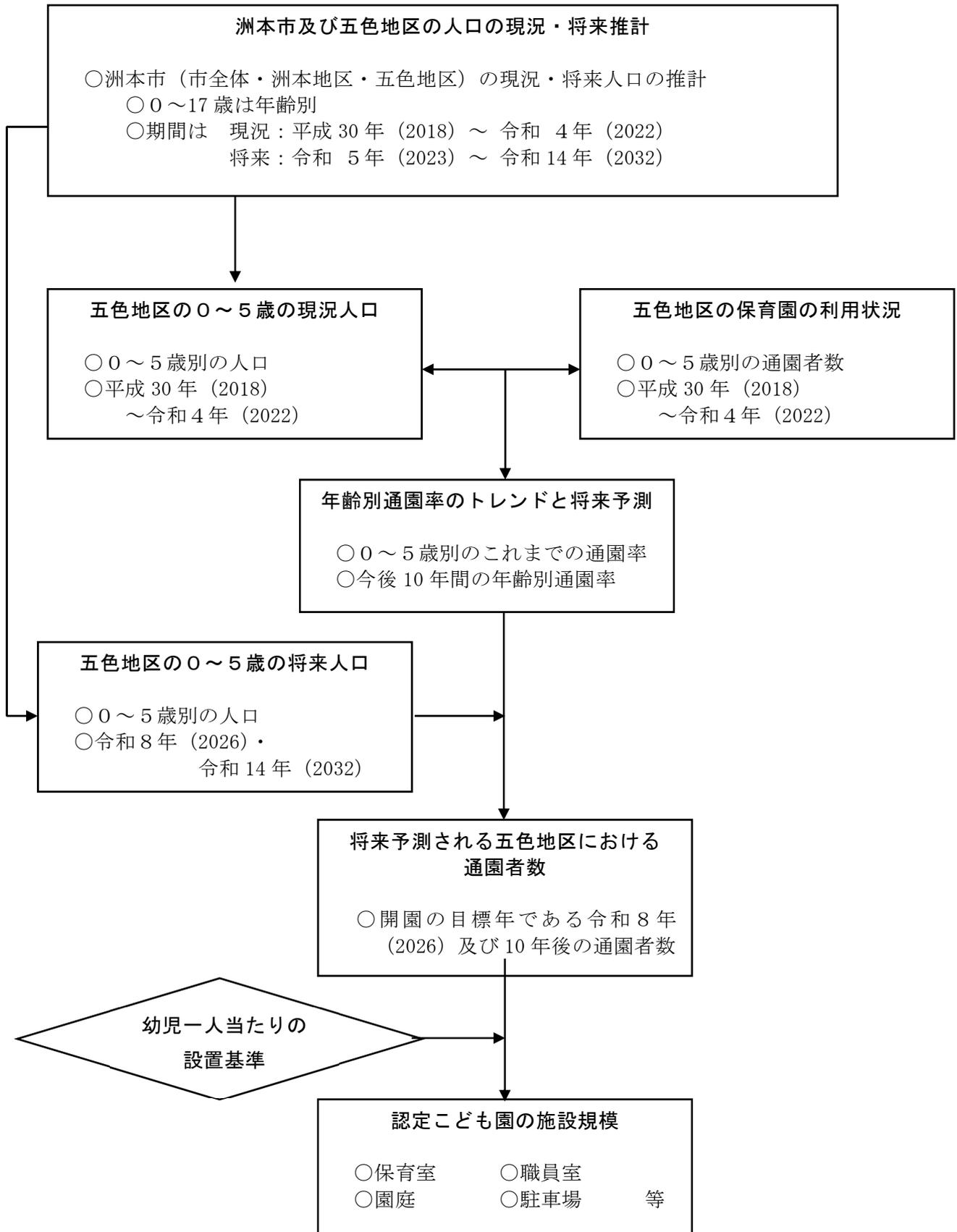


五色認定こども園（仮称）への将来の通園者数設定
に関する検討資料

1. 洲本市（市全体・洲本地区・五色地区）の人口の現況及び将来人口の推計

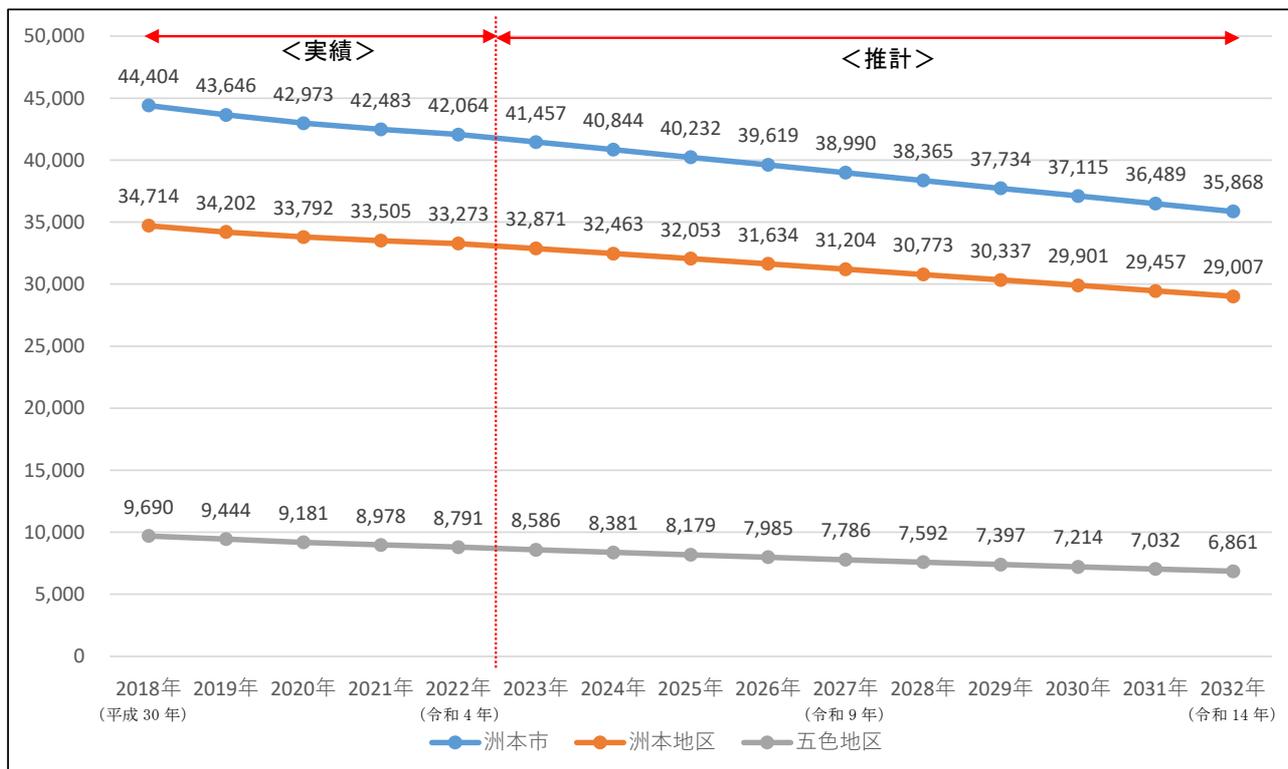
1) 総人口・年齢3区分別人口

【総人口】

- 洲本市の総人口は令和4年（2022）で42,064人ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には38,990人、10年後の令和14年（2032）には35,868人になると推計されます。
- 洲本地区の総人口は令和4年（2022）で33,273人ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には31,204人、10年後の令和14年（2032）には29,007人になると推計されます。
- 本計画対象地区の五色地区の総人口は令和4年（2022）で8,791人（市全体の20.9%）ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には7,786人、10年後の令和14年（2032）には6,861人（市全体の17.7%）になると推計されます。

● 洲本市・洲本地区・五色地区の人口の見通し

（単位：人）

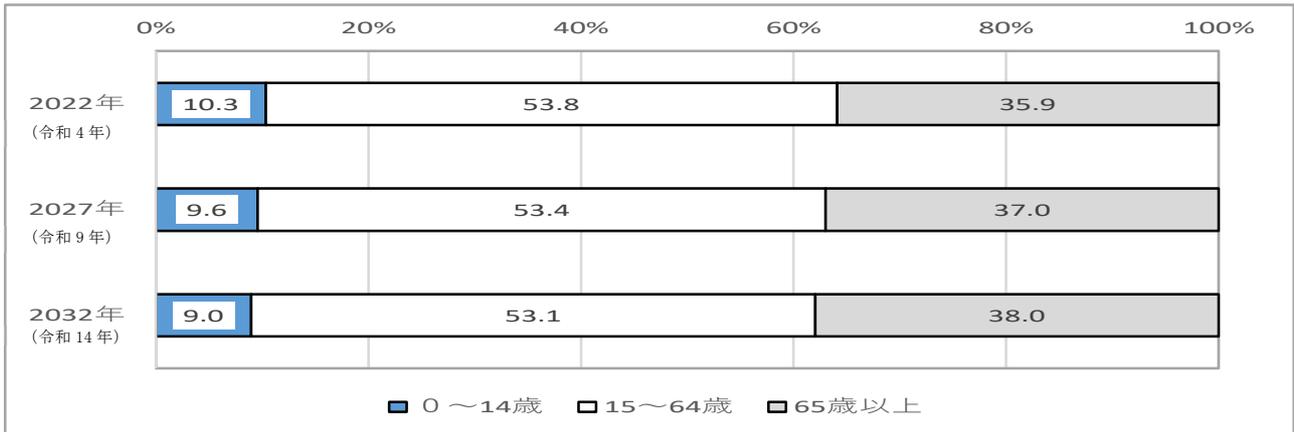


【年齢3区分別人口】

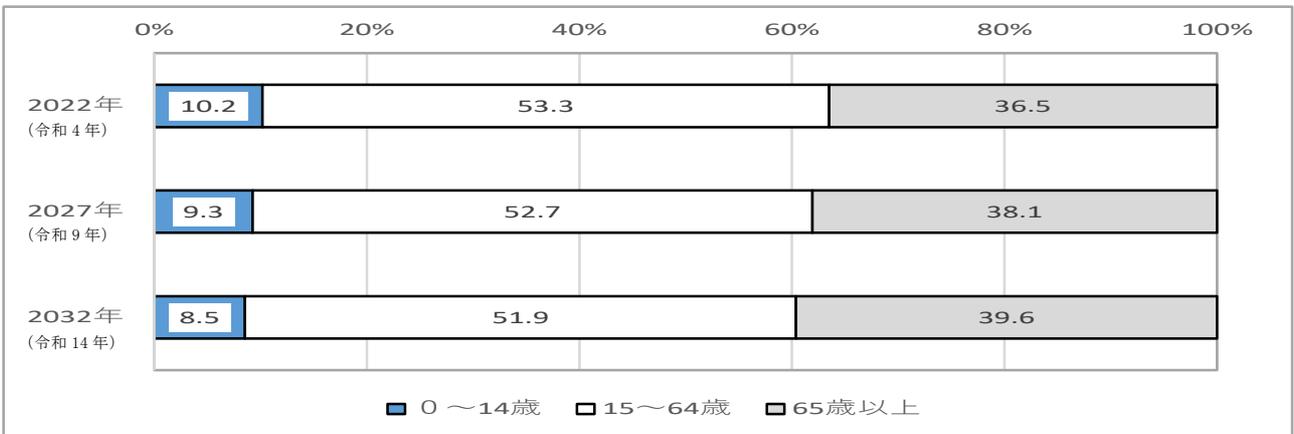
○少子高齢化の傾向は今後とも進むことが予測され、洲本市全体、及び洲本地区・五色地区でも同様の傾向がみられますが、特に五色地区ではよりその傾向が強くなっています。

●洲本市・洲本地区・五色地区の年齢3区分構成比の現状と将来

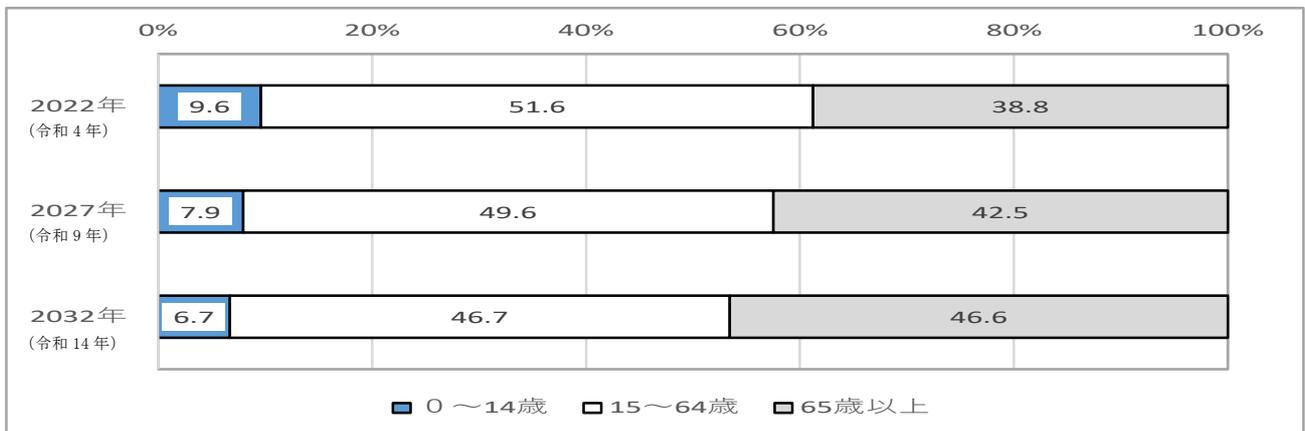
<洲本市>



<洲本地区>



<五色地区>

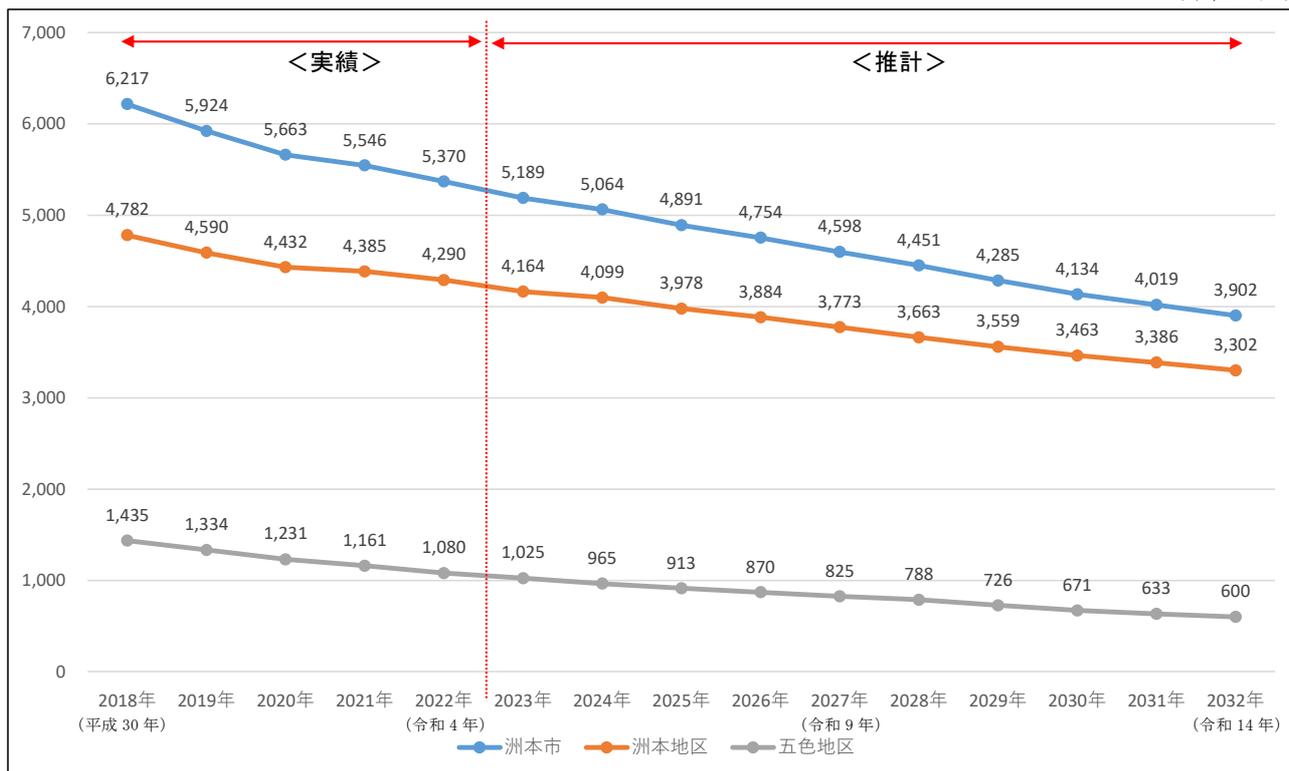


2) 子ども人口（0～17歳）

- 洲本市の子ども人口は令和4年（2022）で5,370人ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には4,598人、10年後の令和14年（2032）には3,902人になると推計されます。
- 洲本地区の子ども人口は令和4年（2022）で4,290人ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には3,773人、10年後の令和14年（2032）には3,302人になると推計されます。
- 本計画対象地区の五色地区の子ども人口は令和4年（2022）で1,080人（市全体の20.1%）ですが、年々減少傾向にあり、5年後の令和9年（2027）には825人、10年後の令和14年（2032）には600人になると推計されます。

● 洲本市・洲本地区・五色地区の子ども人口の見通し

（単位：人）



2. 五色地区の将来の認定こども園に通園する園児数の見通し

1) 五色地区の現在の通園者数と保育園の定員からみた定員稼働率

- 今後、五色地区では認定子ども園を整備し、そこで0～5歳の就学前の子どもに対する教育・保育の場を提供していくこととしています。
- そこで、現在の五色地区の5つの保育園全体でみた、現在の通園者数は以下のとおりで、令和4年(2022)でみると、0歳児は2人、1歳児は17人、2歳児は30人、3歳児は40人、4歳児は52人、5歳児は56人で、総数では197人となっています。
- 最近5ヵ年の動きをみると、年齢によって違いはありますが、全体としては子ども人口の減少に伴い減少傾向にあります。
- 保育園の定員と現在の通園児の数からみた定員稼働率は令和4年(2022)で59.5%とかなり低い稼働率で、これも減少傾向にあります。

●五色地区の現在の保育園の定員と通園者数からみた定員稼働率

(4月時点)

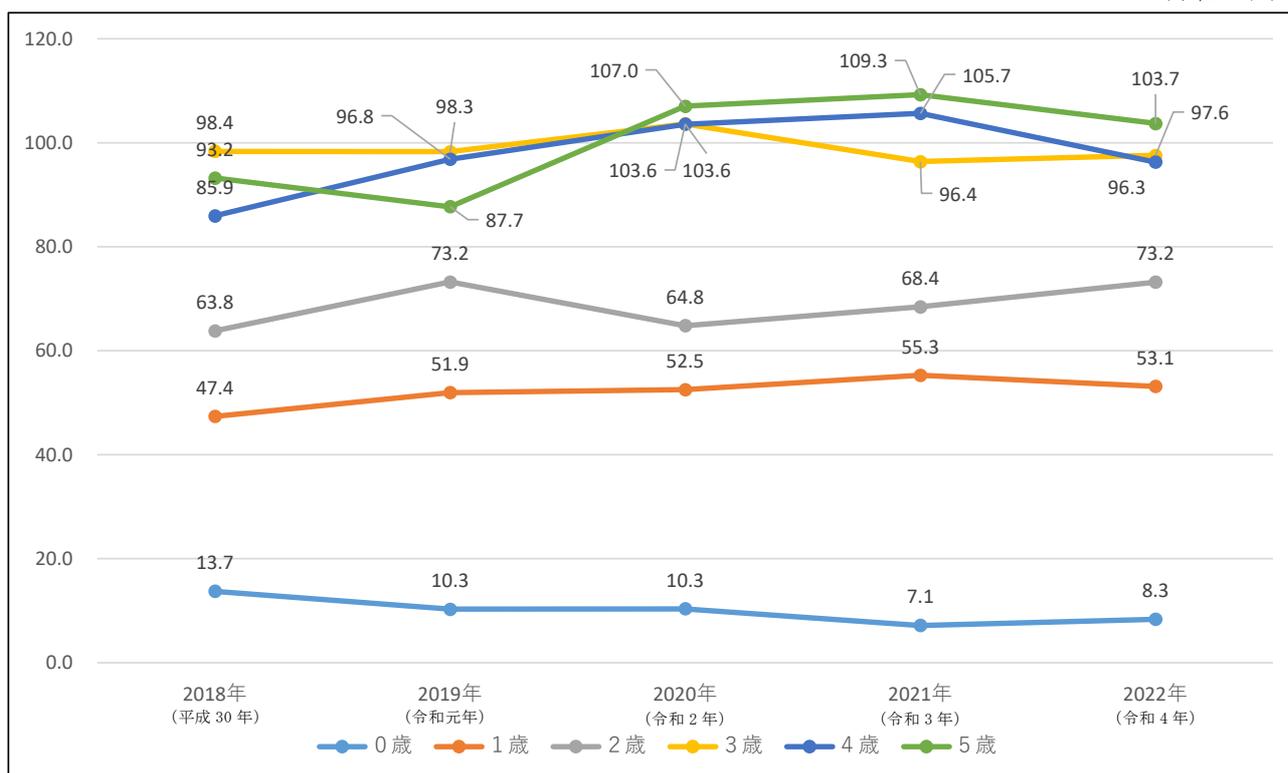
		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
定員数(人)		345	345	335	331	331
通園者数(人)	0歳	7	4	3	2	2
	1歳	27	27	21	21	17
	2歳	37	41	35	26	30
	3歳	60	57	57	53	40
	4歳	55	61	58	56	52
	5歳	55	57	61	59	56
	合計	241	247	235	217	197
定員稼働率(%)		69.9	71.6	70.1	65.6	59.5

2) 通園率

- 五色地区の0～5歳の人口に対して、現在の保育園に通園している人の割合（通園率）をみると、年齢によって大きな違いがみられます。
- 0歳児は、10%前後で推移しており、家庭で保育する割合が高くなっています。
- 1歳児になると、半数くらいの子どもが通園しており、近年は50%強で横ばいの状況になっています。
- 2歳児になると、さらに通園する割合は高くなり、年々やや増加傾向にあり、70%を超えています。
- 3歳児以降は9割以上の通園状況にあります。
- 但し、これは現在の保育園という体制での通園状況であり、今後認定こども園となった場合には、その通園率は高まるものと思われます。

●五色地区の現在の保育園の通園率の状況

(単位：%)



●五色地区の現在の保育園の通園率の状況

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
0歳	人口（人）	51	39	29	28	24
	通園者数（人）	7	4	3	2	2
	通園率（％）	13.7	10.3	10.3	7.1	8.3
1歳	人口（人）	57	52	40	38	32
	通園者数（人）	27	27	21	21	17
	通園率（％）	47.4	51.9	52.5	55.3	53.1
2歳	人口（人）	58	56	54	38	41
	通園者数（人）	37	41	35	26	30
	通園率（％）	63.8	73.2	64.8	68.4	73.2
3歳	人口（人）	61	58	55	55	41
	通園者数（人）	60	57	57	53	40
	通園率（％）	98.4	98.3	103.6	96.4	97.6
4歳	人口（人）	64	63	56	53	54
	通園者数（人）	55	61	58	56	52
	通園率（％）	85.9	96.8	103.6	105.7	96.3
5歳	人口（人）	59	65	57	54	54
	通園者数（人）	55	57	61	59	56
	通園率（％）	93.2	87.7	107.0	109.3	103.7
合計	人口（人）	350	333	291	266	246
	通園者数（人）	241	247	235	217	197
	通園率（％）	68.9	74.2	80.8	81.6	80.1

(※ 通園率が100%を超えるものがあるのは、五色地区以外からの通園者が一部あるためです)

3) 認定こども園の通園者数の想定

○認定こども園の通園者数の想定は、以下の考え方とします。

$$\boxed{\text{五色地区の0～5歳の子ども人口}} \times \boxed{\text{年齢別通園率}} = \boxed{\text{通園者数}}$$

○五色地区の0～5歳人口は、開園を目指す令和8年（2026）、及び10年後について、以下のよう
に見通されます。

●将来の年齢別人口の見通し

（単位：人）

	推 計											
	現況	推 計										
	令和4年 2022年	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年	令和10年 2028年	令和11年 2029年	令和12年 2030年	令和13年 2031年	令和14年 2032年	
0歳	24	31	29	27	25	25	23	21	21	19	19	
1歳	32	27	35	33	31	29	29	27	23	23	21	
2歳	41	33	28	36	34	32	30	30	28	24	24	
3歳	41	41	33	28	36	34	32	30	30	28	24	
4歳	54	41	41	33	28	36	34	32	30	30	28	
5歳	54	54	41	41	33	28	36	34	32	30	30	
合計	246	227	207	198	187	184	184	174	164	154	146	

○年齢別通園率については、現在の通園率の状況と今後認定子ども園として整備されるということ
から、以下のよう設定します。

●通園率の想定			（単位：％）
	現在	将来	
0歳	8.3	20.0	
1歳	53.1	60.0	
2歳	73.2	80.0	
3歳	97.6	100.0	
4歳	96.3	100.0	
5歳	103.7	100.0	

○この通園率の想定に基づく、将来の認定こども園への通園需要は次のように試算されます。

●認定こども園における年齢別通園者数の目安 (単位：人)

	令和 8 年			令和14年		
	(2026年)			(2032 年)		
	人口	通園率	通園者	人口	通園率	通園者
0 歳	25	20.0%	5	19	20.0%	4
1 歳	31	60.0%	19	21	60.0%	13
2 歳	34	80.0%	27	24	80.0%	19
3 歳	36	100.0%	36	24	100.0%	24
4 歳	28	100.0%	28	28	100.0%	28
5 歳	33	100.0%	33	30	100.0%	30
合計			148			118

※ 令和 14 年 (2032) の通園者数は、“現在の状況がこれからも続いたとして” という仮定に基づいた場合の値です。

今後、洲本市の子育て支援策の充実により子ども人口減少の抑制を目指しており、認定こども園の定員を検討する場合は、令和 8 年 (2026) 時における需要を一つの目安にするという考え方があると思われます。

○令和 8 年 (2026) の通園率の想定に基づく、保育室等の部屋構成及び職員の配置数の目安は、次のように試算されます。

●保育室等の部屋構成及び職員数の想定

年齢	園児数	職員の配置基準	算定式に基づく総職員数	部屋構成	部屋構成に基づく職員配置数
	人	園児 1 人当たり職員 (人)	人	室	人
0	5	1/3	1.7	2	6
1	19	1/6	7.7		
2	27	1/6	1.8	2	6
3	36	1/20			
4	28	1/30	2.0	2	2
5	33	1/30			
合計	148	—	13.2	10	18